

スマホで妖怪捕まえて

拡張現実技術のゲーム配信

福 崎 妖怪像を使った町おこしに取り組んできた兵庫県福崎町が、同町を舞台に仮想の妖怪を探し当てるスマートフォン向けのゲームアプリ「妖怪ミステリーフォトラリー」を開発し、配信を始める。人気の「ポケモンGO」と同様にAR（拡張現実）技術を活用し、画面上に現れた妖怪を写真に収めることで捕まえる。町内の店舗前などに掲げるQRコードを読み込めば、ゲームで役立つアイテムが手に入る仕掛けで、観光客らの回遊を促す。（井上太郎）

画面に出現、撮影楽しむ

アプリ内のリーダーで妖怪を探知するが、写真のシャッターを切るまでは姿が見えない。「マタタビ弾」などのアイテムを使うと妖怪をおびき寄せたり、姿を見たりでき、撮りやすくなる。撮影に成功した妖怪はゲーム内のアルバムに記録される。

地域活性化に向けて連携協定を結んでいる神戸新聞社に委託開発。登場する妖怪は座敷わらしや鶴など20種類以上で、いずれも町出身の民俗学者柳田国男の著

書「妖怪談義」に収録されている。デザインは同町主催の造形コンテスト（2014～18年）の入賞作品を使った。

出現場所はJR播但線福崎駅や、柳田の生家が残る辻川山公園など地域、施設があらかじめ決まっている。ツイッターの公式アカウントで随時、妖怪のシルエットと併せて「住民票を取りにいくのが好き」とい



鈴ノ森神社に現れた天狗（てんぐ）

ったヒントを投稿する。

町内の商店前などに置かれている計13基の「妖怪ベランチ」にQRコードを張り出す。夜間に利用者が集まるのを避けるため、遊べるのは午前9時～午後6時に限定する。

今夏から10月中旬ごろまでの配信を予定し、反響次第で延長も検討する。レアキャラクター「金色のガジロウ」を捕まえると抽選で「銀色のガジロウ」のプラモデルが当たる。基本プレイは無料。問い合わせはツイッターの公式アカウント（https://mobile.twitter.com/yokai_photo）で受け付ける。

観光客の回遊促進に

①画面上に現れる妖怪を撮って楽しむ「妖怪ミステリーフォトラリー」。柳田国男の生家に登場したのは「座敷わらし」（いずれも福崎町提供）②「妖怪ベランチ」（手前のかっぱ）との共演も可能

